

■ 発行人 飯山市農業委員会 松永晋一  
■ 編集 飯山市農業委員会 情報委員会

## 「人・農地プラン」地域の話し合いが重要

農業委員会会長 松永晋一



明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は4月の季節はずれの大雪・低温、夏の高温、秋にかけての高温干ばつ、台風による大雨・強風等異常気象が続き農業生産にとつて厳しい年と成りましたが、各位の努力により、米・アスパラ等平年を上回る生産をあげることができました。

TPP交渉について、12月末妥結を目指しましたが、農家を始め国民各層の反対の高まりにより、農産物の重要5品目などの聖域について安易な妥協ができなくなり、今後の見通しも不透明の状況となっております。今後も監視を

緩めず、粘り強く反対していく事が大切だと思います。

さて、国は「農林水産業・地域活力創造プラン」を決定し、農政の大転換を打ち出しました。その骨子は輸出の拡大・農地の集約・6次産業化の推進・農村環境の維持・米政策の見直しなどですが、特に米政策の転換は、米単作地帯である飯山市にとって大きな影響と様々な課題が発生すると懸念しています。

また、「農地中間管理事業の推進に関する法律」が成立し3月に施行されます。農地中間管理機構の事業実施にあたり、市町村との連携体制を整備することでありその際農業委員会の意見聴取を基本とすること、「人・農地プラン」の内容を尊重する事とされており、なお一層地域の話し合いが重要になると考えております。皆で話し合い地域に最適な計画が作成される

ことが期待されます。農業委員会としても農地情報等を提供し皆さんの思いを農地集積に反映できますよう頑張りますので、各位の、ご指導ご協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。



## 平成25年度 飯山市農業賞 木原一夫さん受賞

飯山市の農村・農林業の振興・発展また経営内容が特に優れ、地域の模範となる者に對し表彰する「農業賞」を太田瀬木の木原一夫さんが受賞しました。

授与式は11月24日の「農のまつり」時に行われ、松永会長より授与されました。



## 伊澤前会長 「長野県農業会議会長表彰」受賞

去る、11月7日長野県農業会議主催で「長野県農業委員会大会」が開催されました。



この大会は、県内の農業委員が一堂に会し、農業委員としての責務を再認識するとともに、農地制度の適正な執行を図るた

め毎年開催されるもので、TPPや持続可能な力強い農業の実現に向けた各種の決議及び大会宣言が採択されました。

席上、前飯山市農業委員会長の伊澤春一さんが「長野県農業会議会長表彰」を受賞されました。この表彰は農業委員として地域農業の振興に努められ農業委員会の運営・発展に努められた功績によるもので、伊澤さんは農業委員として12年、会長として9年の間ご苦労いただきました。

木原さんは、そばによる地域の活性化を図るため、賛同する仲間と共に平成2年「瀬木ふる里そば園管理組合」を立ち上げ、その活動を開始しました。平成9年には個人でのそば栽培も本格化させ、平成23年からの2年間で約1.5畝の農地拡大を行い、遊休荒廃農地の解消に大きく貢献されています。

また、地域においては、そば道場を開くなどしてそばによる地域振興にも献身的に取り組まれていると同時に、若い世代への農業の引き継ぎをいかに行っていくかなど常に模索し実践されています。あらためまして、受賞をお祝い申し上げます。

## 平成25年度 市長建議

飯山市農業委員会では、11月28日に足立市長に対し平成25年度農業振興施策に関する建議を行いました。

これは農業委員会法第6条第3項の規定により、農業者の代表機関として行政機関へ建議するもので、地域の担い手となる農業者への農地集積の取組み、飯山らしい地域振興策の実践で、特徴ある農業・農村づくり等を積極的に図られるよう市長建議を行ったものです。



## 飯山市農林業の振興対策について

・関係する農業団体などと連携を密にし、アスパラガスの生産拡大、また同様の収益性のある新規作物の導入等による継続的・安定的な農業経営の構築。

・第6次産業化による農畜産物の高付加価値化、食品加工試験研究など、関係機関・団体との推進。  
・直売・宅配等の販売対策としてマーケティングも含めたコンサル的な人材確保。

## 農業・農村環境整備と地域活性化について

・関係機関と連携を密にし、より一層の農地利用集積の促進。  
・耕作放棄地の発生防止・解消に向けた省力化作物の推進とそれらの機材等への支援。  
・若手農業者の市場視察や経営戦略研修等への積極的参加。  
・農業経営に意欲ある青年の就農支援策として市独自の支援。

・地区の特徴を生かした「人・農地プラン」作成・推進にあたり、国・県では対応できない事業への助成等の継続。  
・一層の鳥獣被害防止対策。併せて森林の整備や里山の保全活動への継続的な支援。  
・農地の現状把握と適正化について

・農地利用状況調査の調査専門補助員の設置及び農地台帳整備に伴う農業委員会事務局の体制整備。

## 国・県等関係機関への要望について

・過剰米対策・米価の維持を基本とした政策の推進。  
・直接支払事業の戦略作物の価格補償対策の実施。

建議提出後、市長と農業委員の懇談が行われ、飯山の農業振興について意見交換されました。

その中で市長から今は国の農業施策の変動期であり、今後米をはじめとして農産物をどのように売り込むか考える必要があると話されました。農業委員からも農地集約や地域独自の農業振興に、きめ細かい支援が必要との意見などが出されました。

情報委員 今井

## (11・12月の活動記録)

- 11/7 長野県農業委員大会 (長野市)
- 8 農業委員会役員会
- 19 JAとの懇談会
- 24 農のまつり (トピアホール)
- 28 市長建議・11月農業委員会総会
- 12/6 農地相談・農業委員会役員会
- 26 12月農業委員会総会

## 「JA北信州みゆき」との懇談会

— JA役員室・営農部と農業委員で開催 —

飯山市農業委員会では建議等に向けた、農業者等の意見・要望等の集約の一環として、懇談会を11月19日に開催しました。

冒頭、松永農業委員長より「TPPについては重要5品目を守るため、頑張っしてほしい。また、米の生産調整や個別補償制度が廃止されそうだが、うまい飯山の米が生き残れるように販売を今から積極的に進めてほしい。」と挨拶がありました。



JA佐藤組合長からは、「農業の振興はJAと行政が一体となつて進めていく必要がある。地域の特色を活かした産地作りを目指し、やりがいのある農村にしていきたい。また、26年春をめどに株式会社「アグリみゆき」を立ち上げたい。」等挨拶がありました。

話が集中し、①アスパラの茎枯病は一定の防除方法のめどが立った。最盛期の4月・5月に一定量の数量を確保し、その後の有利販売に繋がりたい。特に、雪解け後のアスパラは糖度が高くなるので、特別の名前をつけて販売したらどうか。②飯山は良質米の産地であり、市場から高い価値を受けているので高値販売に力を入れたい。なお、その中でもある程度安く販売できる多収穫の品種もあれば面白い。③きのこ栽培やみゆきポークは飯山市もJAにとつても大切な産業。現在ブナシメジの培養・栽培施設の建設を検討しているが大きな資金がかかるのがネック。行政の協力もお願いしたい。等、意見や要望が出ました。

ほか、有機資源の活用等活発な意見の交換がされました。今後も農業委員会として、市長建議等を通じ農業者等の意見要望を行政に繋げ、関係者の話し合いをより活発にし、協力しながら住みよい飯山市にしていければと思います。

情報委員 丸山



飯山市農業委員会事務局  
飯山市役所農林課内  
電話：0269-62-3111 (内線261)  
FAX：0269-62-6221